

平成22年度 ふるさと活性化事業・地域活性化事業・蔵文化講演会 アレックス・カー氏 清水慎一氏 講演会

蔵の町喜多方と言われて約40数年が経ちました。蔵は喜多方のアイデンティティとして、まちの活性化の中心に位置づけられて大きな成果を上げてきました。近年、高郷、山都、塩川、熱塩加納、喜多方の合併で、その蔵数4600棟。世界一の蔵群として存在感を示します。堅牢で300年は持つという、強く、優しく、美しい土蔵、煉瓦蔵、石蔵、至高の座敷蔵、この有意義な資産をどのように再生させるか？次世代にどう伝えるか？アレックス・カー氏、清水慎一氏を招いて、蔵の利活用による再生を蔵の会が合併後の市民と共に考えます。



日 時： 2010年5月20日(木曜日) 18時30分から20時
演 題： 喜多方の蔵の再生と利活用
場 所： 大和川酒蔵 北方風土館 昭和蔵
連絡先電話 0241-22-2233
参加費： 講演会(500円) (懇親会参加者は2,000円)

主 催： 蔵の会
共 催： 喜多方蔵のまちづくり協議会
後 援： 喜多方市・喜多方地方広域市町村圏組合

喜多方の蔵の利活用とまちづくりに重要な助言をいただきます。

アレックス・カー氏 プロフィール (日本人より日本の「美」を知っている東洋文化研究家)



1952年アメリカ生まれ。
東洋文化研究家。12歳の時、海軍の弁護士だった父に連れられ初来日。
横浜に2年間住んだ後に帰国。ユール大学で日本学を専攻する。
19歳のときヒッチハイクで日本一周の旅を敢行。
その時出会った徳島県祖谷(いや)の茅葺き屋根の家 に魅かれ、
慶應義塾大学に通いながら、古い家屋を修復する。
『美しき日本の残像』(朝日文庫)で新潮学芸賞受賞。
最新刊は現代日本の暗部を暴く『犬と鬼』(講談社・4月刊)
2007年7月にはTBS系【情熱大陸】で紹介される。
かつて美しい自然環境と豊かな文化遺産を誇った日本は、
今や見渡す限りのコンクリートと看板、電線に埋め尽くされています。
それらの風景を、深い知識と審美眼、そして何より日本への愛情をもってユークに批判する。
2年前から京都や四国で古い町家を改装し、現代によみがえらせるプロジェクトをスタート。
関わったすべての町の再生に貢献する。



清水慎一(しみずしんいち)氏 プロフィール



(株) JTB 常務取締役
1948年生まれ。東京大学法学部卒業。
日本国有鉄道に入社、JR東日本に移行し、本社営業部企画部長、
東日本キョースク(株)代表取締役専務、取締役営業部長、取締役仙台支社長を歴任。
交流人口の増加こそが地域の活性化につながるという考えで東北各地のまちづくりをリード。
特に、蔵の町喜多方に特別の思い入れがあり、蔵の町の再生に尽力、着地型を早くから提案。
喜多方大使を務める。
福島県会津のデスティネーションキャンペーンをリードし沈滞した会津観光を再生。
宇宙旅行・ロングステイプランなどの新商品の開発など企画多数企画をうちだす。

申込先：大和川酒蔵北方風土館 蔵の会事務局 0241-22-2233